



夏井いつき句会ライブ in いわき

第四回 東北お遍路写真コンテスト
第三回 東北お遍路俳句コンテスト

作品集

エネルギー産業における技術開発で世界に貢献する
 ~Serving the world through Expertise in Energy~



いわき

本日は、東北お遍路プロジェクト主催の「夏井いつき句会ライブ in いわき」にお越しくださり心より感謝申し上げます。震災から9回目の3月が過ぎ、福島県民が待ちに待ったJR常磐線も全線開通いたしました。東北お遍路プロジェクトは東日本大震災の被災地（福島県いわき市から青森県八戸市）に、千年先まで語り継ぎたい震災の物語を集め、慰霊と鎮魂の巡礼地を設定しておりますが、その数も83ヶ所となりました。

この記念すべき春に、私たちの俳句コンテストの選考委員を務めてくださる夏井いつき先生を福島のお地にお迎えし、先生がライブワークにされている「句会ライブ」を開催する運びとなりましたのは、この上ない喜びです。

今回のイベントのパンフレットには、私どもが主催します第3回俳句コンテストと第4回写真コンテストの作品集も併せて編集いたしました。毎回お寄せ頂く作品には「被災地の今」が切り取られていると同時に、皆様の暖かな眼差しや祈りが込められており、心を熱くします。

東北は幾度も津波の被害に見舞われましたが、大災害を経てあらためて思うことは、「語り継ぐことが最大の防災である」ということです。被災地ではすでに震災の風化が危ぶまれておりますが、巡礼地を巡るお供に俳句や写真があれば、なお記憶を紡ぐ旅となることでしょうか。これからも皆様と一緒に東北お遍路巡礼地を発掘し、発信して参りますので、皆様のお力添えを給わりますようお願い申し上げます。

東北お遍路プロジェクト代表・新妻香織



地球環境と人類の未来のために…

東洋システムは、パーソナル携帯機器からハイブリッドカーや電気自動車まで、広範囲に使用されている二次電池を研究開発する際にかかすことのできない評価装置の提供を行っています。

わたしたちは、エネルギー産業に携わる企業として、新しい発想をもとに、地球環境を守る人たちのバックアップを続けてゆきます。

- 本社
 福島県いわき市常盤西郷町銭田106-1
 TEL:0246-72-2151 FAX:0246-72-2152
- 国内外拠点
 ○ 横浜事業所 ○ 大阪営業所 ○ 豊田事業所/豊田評価センター
 ○ 関西評価センター ○ TOYO SYSTEM USA, Inc.



■ TOSCAT
 充放電評価装置

携帯機器やハイブリッドカーなどに使われる二次電池の研究開発を行う際に使われる装置です。小型電池から大型電池まで全てのニーズに対応できるラインアップを持っており、お客様のニーズに合った装置を設計開発して、ご提供いたします。

目次

夏井いつき句会ライブへようこそ

句会ライブとは

句会ライブの進め方

第3回東北お遍路俳句コンテスト作品

黒田 杏子選 「入選十五句」

夏井いつき選 「入選十五句」

選外作品五十句

東北お遍路巡礼地を旅しよう【福島編】

第4回東北お遍路写真コンテスト作品

写真コンテスト総評

優秀賞三点

佳作十点

コンテスト当選者発表表

25 22 21 20

18 14 12 10

6 4

夏井いつき

句会ライブへようこそ！

句会ライブとは？

句会ライブはたくさんの人たちと一緒に楽しむための新しい句会の形です。

俳句なんて絶対作れないと信じている人でも、「取り合わせ」という技を一つ覚えれば、5分で一句作ることができます。

自分の俳句がその場で評価され、皆で議論してグループを決めるというゲームとしての面白さ、コミュニケーションの場としての句会の楽しさ、表現する喜び等々、様々な体験ができます。

夏井いつき氏 Profile

昭和32年生れ。松山市在住。
8年間の中学校国語教諭の後、俳人へ転身。「第8回俳壇賞」受賞。俳句集団「いつき組」組長。創作活動に加え、俳句の授業（句会ライブ）、「俳句甲子園」の創設にも携わるなど幅広く活動中。TBS系「プレバト!!」俳句コーナー出演などテレビラジオでも活躍。松山市公式俳句サイト「俳句ポスト365」、朝日新聞愛媛俳壇、愛媛新聞日曜版小中学生俳句欄、各選者。
2015年より初代俳都松山大使。
『句集 伊月集 龍（朝日出版社）』、『伊月集 梟（マルコポ、コム）』、『「月」の歳時記（世界文化社）』、『季語道場（NHK出版）』、『おうち俳句（朝日出版社）』、など著書多数。

句会ライブは小学生から大人まで、幅広い年代の方にお楽しみいただけます。初心者から楽しんで頂ける内容ですので、事前指導は必要ありません。

* 句会ライブの意義

- ① 俳句に親しむ（実作から批評まで）。
- ② 俳句を通じてコミュニケーションのできる場（座）の楽しさを体験する。
- ③ 季語を知ること、自然を見つめ直す目が養われ、季語を五感で体感するきっかけとなる。

特に②については、参加者の自由な解釈を元に議論を進めていきます。参加者それぞれの内側にある言葉や経験を元に、俳句を鑑賞していきます。何もない状態で自分のことを語る事は難しいですが、俳句を媒介にすることにより、俳句を通じて自分の体験や内側にあるものを引きだし、生き生きと語れるようになります。

* 句会ライブの流れ

前半

- 俳句クイズを交えながら、作句方法「取り合わせ」の型をレクチャー。
- 5分で一句の作句に挑戦する。
- 投句回収。
会場係が皆様の俳句を回収に回ります。

《休憩》

後半

- 休憩中に夏井先生が全作品に目を通し、予選通過を5句〜10句程度にしぼります。
- 本日の秀句を大型短冊に清書し、発表。
- 会場の議論、挙手や拍手による多数決で、当日のグランプリを決定。

第三回 東北お遍路俳句コンテスト 作品集

俳句

黒田杏子氏と夏井いつき氏（師弟コンビです）にご協力を頂いて開催している東北お遍路俳句コンテストですが、今回で第3回となりました。

東北お遍路プロジェクトは、東北の東日本大震災の被災地に、63ヶ所（現在は83ヶ所）の慰霊と鎮魂の巡礼地を設定しておりますが、今回も巡礼地や震災にまつわる俳句を詠んでいただきました。心に沁み入る力作が揃いました。

東北お遍路俳句コンテスト選考委員



夏井 いつき 氏
俳人
「いつき組」組長



黒田 杏子 氏
俳人
「藍生」主宰

ISO認証取得
14001 環境
9001 品質

住みよい環境を創造する
総合建設業



株式
会社

加地和組

代表取締役 川 和 玄 央

〒970-8026 福島県いわき市平字小太郎町4番地の11

TEL : 0246-23-8261 FAX : 0246-23-8289

緑は人生を豊かにします

造園・土木・施工管理

(株) 吉田造園

代表取締役 吉田博史

〒970-8044 いわき市中央台飯野一丁目22-9

☎ (0246) 29-1319 fax (0246) 29-1319



黒田 杏子氏 選評

天 汗をかくお地藏様を拭う路

廣瀬 昭美 (山梨市 43歳)

なんとやさしい方でしょう。このコンテストならではの作品とおもい、感動しています。炎天の道をゆく人と、道に佇つお地藏様とのまたとない出会い。そこはお地藏様の汗を拭つてさし上げる路であつたと。凄い句。

地 それぞれの三千日や萩の寺

藤岡 値衣 (徳島市 59歳)

一日は平等にどの人の上にも流れてゆきます。あの日から何と三千日。いろいろな想いが胸にあふれてきます。たまたま作者の立ち寄られたお寺は萩の花のまつさかり。あの日からという想いを上手に表現されました。

人 木の実落つひとつ雄島の仏にも

小久保 顕 (宮城県仙台市 82歳)

さりげない句。作者のやさしさがあふれています。ひとつと、雄島の仏にもという実に静かな空間の切り取り方。この作者は連達の人のなです。初心者にはとても詠めない、静かに深い句。心に沁みる作品。

死者に歌生者にも歌青やませ

徳重 三重 (大阪府河内長野市 77歳)

青やませという季語に対して、死者に歌、生者にも歌と付けられた作者の腕前に感服しました。この句も、この俳句大会の収穫ですね。年々すぐれた作品が寄せられて、選者としてまたとない勉強になります。

前日の三月十日土筆摘む

松下 洋介 (大阪府和泉市 75歳)

こういうことあつたと思います。同じようなモチーフの句はすでに沢山あります。しかし、この句の真実は作者だけのもの。俳句という一行十七音字のミニマムな詩形。そこに長編小説も及ばないマキシマムな世界が…。

入選 命奪ひいのち育てて海霧の海

小笠原 聖子 (青森県八戸市 79歳)

八月を歩き続けて炎ゆるる足

朗善 千津 (山梨県山中湖村 59歳)

長旅の果てに松あり神渡し

篠木 翔 (福島県立磐城高等学校)

被災地の闇被災地の螢かな

曾根 新五郎 (東京都新島村 64歳)

あの日ここは遺体安置所夜のプール

猪狩 行々子 (福島県いわき市 69歳)

日盛りにただひとり立ち祈る人

豊島 喜美子 (岩手県宮古市 63歳)

新妻の観音巡り花の寺

岡田 良子 (会津若松市 87歳)

欲もなく苦もなし我は冬の山

吉田 快斗 (福島県立磐城高等学校)

誰そのの哀しみ深く班雪

岩淵 真知子 (北海道函館市 66歳)

村跡も瓦礫のあとも遍路道

竹内 生子 (愛媛県松山市 68歳)



夏井 いつき氏 選評

天 枯枝は鉛の棘や夏怒涛

佐野 享保 (宮城県大崎市 71歳)

津波による「枯枝」かとは思いますが、塩害や病害と読む人があってもよからう。中七「鉛の棘」という比喻によって色や形状や質感が見事に映像化され、下五「夏怒涛」の激しい飛沫と強い潮の香が迫力もって立ち上がる。

地 新しきトンネルを出づ釜石残暑

木寺 洋子 (東京都世田谷区 64歳)

「新しきトンネル」を単なる開通だと読み始めた脳を、下五「釜石残暑」がガツンと揺さぶる。地名と季語の合体が、その意味と歳月の重さを読者に思い知らせる。最後の字余りは、まるでハンマーで殴られたかの衝撃。

人 雁渡し古墳のごとき避難丘

池添 怜子 (宮城県仙台市 81歳)

東北遍路を歩いていくと、あちらこちらに「避難丘」が造成されている。「古墳のごとき」はそれらの様態でありつつ、作者の心持でもあるのだろう。季語「雁渡し」の向こうには、はるばるとした祈りの空が広がる。

線量計かざす故郷は無季の街

松岡 啓子 (千葉県我孫子市 62歳)

「線量計かざす故郷」をやるせない思いで詠んだ句には出会ったことがあるが、「無季の街」と言い切る作者の思いにハッとさせられた。やがて萌え出る植物の一つ一つから季節は再生する。ともにその日を待ちたい。

春のうまれてくるようなV字谷

吉田 快斗 (福島県立磐城高等学校)

東北お遍路を歩く途上に遭遇した「V字谷」だろうか。地震や津波の跡地を詠んだ多くの句の中に、春を待つ小さな太陽を見つけたような心持になった。滅びる無常もあれば、生まれ出る無常もある。そんな希望の一句だ。

入選 つばめくる宮城にふたつ日和山

阿部 堅市 (宮城県仙台市 75歳)

津波禍の黒板の錆八月尽

阿部 ゆき子 (岩手県盛岡市 67歳)

八月を歩き続けて炎ゆる足

朗善 千津 (山梨県山中湖村 59歳)

海へ傾ぐ夜の向日葵の墓標かな

増田 信雄 (埼玉県さいたま市 81歳)

稲妻や礼拝堂の如き駅

渡部 桜桃 (愛媛県松前町 20歳)

線量計さげひよこ組に入学す

古市 文子 (福島県いわき市 77歳)

秋の虹ここにかけむと龍の松

藤岡 値衣 (徳島県徳島市 59歳)

東北の芋虫訳もなく太る

梅田 昌孝 (愛知県名古屋古屋市 66歳)

灯台や鉄錆を踏む秋の暮

松野 未悠 (福島県立磐城高等学校)

境内にズイガンジーと蝉の鳴く

佐藤 香澄 (新潟県燕市 69歳)

選外作品五十五句

- 希望の碑をなぞる指先涼新た
三・一一を八年過ぎてなほ寒し
蕪島で異国の人に降る小雪
春の海波間波間に花束が
みちのくの友よ喜べ白鳥来
連風の海へ流れて父よ娘よ
海原を眼裏におき曼殊沙華
サルビアや未来へ継がむ幼き字
一枚はひとり慰霊の名札灼け
語り継ぐおにぎりの味二十日盆
碑の最後は「生きろ」盆の波
仮設より仮設を訪ぬ蝉しぐれ
死すまでは生きろ僧説く彼岸花
校庭にいのちの石碑卒業す
翁忌の落葉の数や瑞巖寺
被災地の子らと語らふキャンプ場
北は八戸西は松山遍路道
時計止まるもあの日生まれし孫8つ
五輪呼び復興滞る奥の浜
一本松は寂しき木なり赤蜻蛉
学童の笑ひははずこ秋八年
何語る大川小に蝉時雨
天高く昇れよ青い鯉のぼり
枯木星飛び立つ未来想い乗せ
福島に戻る日願ひ桃を買ひ
フクシマを映し耀ふ植田かな
- 三月や命日そろふリアスの地
永久につづく大川小の春休み
アーチ橋日傘差し掛けられ渡る
震災の浜辺に今日も松植える
風花が舞うふるさととはとうに無し
せり鍋の湯気家族みな集まる日
ふるへつつ産まるる初日甲板に
復興の村の盆市灯をともす
勿来関越えみちのくの曼殊沙華
寢殿の雨垂れこぼる音は冬
遠浅の浜辺にリボン涅槃西風
原発の無き世を希ひ初苦
海へ十歩出て聞く磯の秋の風
磯の香の満つる校舎の消ゆる春
福島を忘れさせるな聖五月
八月の大潮に立つ黙し停つ
今更の年月ながし花行脚
灯台に呼ばれ初蝶照りまよふ
廃校となりし豊間の春休み
啓蟄やアクアマリンへ稚児の列
静穏の遍路足元大西日
森羅万象藻屑となりぬ晩翠忌
おんこの実聖火リレーの出発地
未来からの風吸ひ青い鯉幟
眺めるだけの海となりちろろ鳴く
瓦礫這う陸前高田冬の浜
遍路杖を頼りに辿る道はるか
色鳥なり色失せし廃炉の空
- 村田加寿子 (青森県八戸市 68歳)
鈴木梨花 (青森県八戸市 78歳)
小松紀子 (秋田県大仙市 68歳)
及川貞志 (岩手県遠野市 93歳)
菊地十音 (岩手県盛岡市 84歳)
畑育子 (岩手県盛岡市 66歳)
木村耀子 (岩手県盛岡市 85歳)
吉川香廉 (岩手県盛岡市 42歳)
二階堂光江 (岩手県盛岡市 65歳)
佐藤雅子 (岩手県盛岡市 75歳)
大信田宏子 (岩手県盛岡市 71歳)
鈴木睦子 (岩手県盛岡市 84歳)
武田本子 (山形県東根市 83歳)
今野紀美子 (宮城県塩釜市 79歳)
及川源作 (宮城県塩釜市 78歳)
佐藤悦子 (宮城県塩釜市 64歳)
高村龍彦 (宮城県大和町 67歳)
南部努 (宮城県仙台市 68歳)
浦井雄治 (宮城県仙台市)
佐藤広和 (宮城県仙台市 58歳)
佐藤妙子 (宮城県仙台市 78歳)
八木充幸 (宮城県仙台市)
海老沢法導 (宮城県仙台市 70歳)
柴田かな (宮城県仙台市 48歳)
高橋さとか (宮城県仙台市)
林美佐子 (宮城県仙台市 80歳)
- 安達秀雄 (宮城県仙台市 78歳)
齋藤伸光 (宮城県仙台市 73歳)
高橋幸子 (宮城県仙台市 86歳)
大橋信彦 (宮城県名取市 75歳)
村上美保子 (福島県新地町)
杉本田鶴子 (福島県相馬市 67歳)
麻倉遥 (福島県福島市 37歳)
齋藤美保女 (福島県郡山市 64歳)
森高武 (福島県いわき市 71歳)
石井基予子 (福島県いわき市 74歳)
佐藤やすこ (福島県いわき市 71歳)
さいとうみおる (福島県いわき市 88歳)
平井改子 (福島県いわき市 85歳)
伊藤弘子 (福島県いわき市 72歳)
中田昇 (福島県いわき市 70歳)
鈴木光子 (福島県いわき市 84歳)
西山逢美 (福島県いわき市 71歳)
飯高きみ (福島県いわき市 90歳)
中村正弘 (福島県いわき市 75歳)
館柳歩 (福島県いわき市 78歳)
関口芳 (栃木県日光市男 60歳)
石橋いろり (東京都小平市 60歳)
明維久里 (東京都練馬区 56歳)
高橋富久江 (千葉県君津市 77歳)
羽矢真人 (千葉県富津市 75歳)
大西隆栄 (和歌山県和歌山市 78歳)
合田マサル (大阪府堺市 80歳)
井上昌子 (大阪府堺市 79歳)
松廣李子 (大分県大分市 65歳)



“誠意と技術で創る”

常磐開発株式会社

代表取締役会長 佐川 藤介
代表取締役社長 高木 純一

本社：福島県いわき市常磐湯本町辰ノ口1 TEL(0246)72-1111

支店：東京 営業所：茨城・双葉

造園設計・施工管理

有限会社 小名浜造園

代表取締役 渡辺 暁

〒971-8168 いわき市小名浜君ヶ塚町13-23

☎0246-53-4820 Fax.0246-92-3928



●造園設計施工●法面保護・緑化●土木●観葉植物

株式会社 山一緑化土木

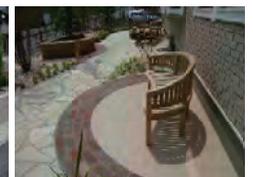
代表取締役 四ッ倉 隆裕

〒973-8401 福島県いわき市内郷小島町花輪9番地

☎ 0246-26-3061 FAX 0246-26-3791



庭でくつろぐ癒しの時間



夢のお庭づくりのお手伝いをいたします。
お庭のことならすべておまかせください！

洋風ガーデニング・和風造園・植栽工事・エクステリア外構工事
Green Communications

株式会社 マツザキガーデン

〒970-1145 福島県いわき市好間町北好間字南町田2-1

TEL 0246-36-7188 FAX 0246-36-7880

ホームページ <http://www.matuzaki-garden.com/>

Eメール info@matuzaki-garden.com

Garden & Exterior
無料相談・見積無料

どんなことでもお気軽にお電話ください

フリーダイヤル

0120-023-411

訪ねてみよう!

福島県内の東北お遍路巡礼地。

現在(2020年3月)、東北お遍路巡礼地は青森県八戸市から福島県いわき市に83ヶ所設定され、うち福島県内には26ヶ所の巡礼地があります。春の陽気に誘われて、車で、徒歩で、巡ってみましょう。



●お問い合わせ 一般社団法人東北お遍路プロジェクト 仙台市太白区長町三丁目9-10(エフエムたいはく内)
☎022-717-5805 E-mail info@tohoku-ohenro.jp
公式ウェブサイト https://tohoku-ohenro.jp/

●**新地町**
①龍昌寺
新地町谷地小屋潤崎27
龍昌寺は、被災墓地の墓石をすべて探出し、同時に遺骨も収集して納骨し、その上に観音様を建立してモニメントにした。

②安波津野神社
新地町谷地小屋宇釣師
豊漁と海上安全を祈る神社。被災し、平成28年にすぐそばに移築された。五年に一度例大祭が行われる。

③大戸浜観音堂
新地町大戸浜北
100人近い人がここまで逃れた。津波は観音堂に続く急坂を駆け上がったが、お堂は流出しなかった。

●**相馬市**
④津神社
相馬市原釜字大津239
貞観津波や慶長津波の際、津波が神社すく近くまで迫りながらも被害を免れた伝承あり。今回もここに避難されたたくさんの方が無事だった。

⑤松川浦
相馬市尾浜松川浦公園
多数の犠牲者が出た原釜・磯部地区が大橋より望める。松川浦と太平洋とを仕切る砂州が鶴ノ尾岬のところで一部決壊したが、大津波のエネルギーを抑える砦になった。

⑥長命寺
相馬市岩子字大迫287
大きな被害が出た岩子地区だが、集落の背後に断崖が連なり、住民はこの高台で集落が水没していく様子を見ていた。断崖の上にある長命寺で人々は不安な夜を過ごした。

⑦稻荷神社(奇木神社)
相馬市磯部字大浜
町が壊滅した磯部地区にある。「津波がきたらお明神様に逃げろ!」の言い伝え通り、町を破壊し尽くした津波は参道だけをかすめた。

⑧山田神社
南相馬市鹿島区北海老字磯ノ上
明治から昭和の干拓事業の鎮守として祀られたが、干拓地は水没、氏子47人の命も奪われた。全国からの支援で新社殿が平成28年に完成。

⑨御刀(みと)神社
南相馬市鹿島区北右田字御堂112
延喜式内社を千年にわたって守ってきた北右田集落60戸が津波で壊滅的被害を受け、集落が解散。神社の狛犬は津波に乗って隣の家の座敷に鎮座していた。

⑩北菅浜(きたかひばき)神社
南相馬市原町区北菅浜
北菅浜地区95世帯中65世帯が全壊したが、神社はほぼその形をとどめた。神社を後世につなぎたいと

⑪相馬小高神社
南相馬市小高区小高城下1773
地域の人々だけでなく、伝統行事相馬野馬追のために飼われていた多くの馬も津波で亡くなった。震災の翌年、まだ警戒区域の内だったが、神社「野馬懸」を再開、復興を誓った。

⑫日鷲(ひわし)神社
南相馬市小高区女場明地159
震災時、神社で波が2つに割れ被災は免れた。第1原発から15kmに位置し、宮司はご神体を守りながら氏子や地域の人々を支え、帰還を促すためのイベントを継続。

⑬大聖寺
浪江町大字北幾世橋北原6
H29年4月、かつて浪江町の4割の人口が住んでいた東部地区だけが避難解除になった。氏子の皆さんは町に心をつなぎとめる絆であり、人々の心の上よりとこなっているこの寺を誇りにしている。

⑭請戸(うけ)小学校と大平山霊園
請戸小町請戸持平56
請戸小は海岸から500m、津波は一階の天井まで到達した。教職員と7人の子どもの約2km先の大平山を目指し逃げ、その後国道を通りかかったトラックに載せられ町に逃げた。大平山の一部に町営の墓地が造られた。第一原発から約6km。

⑮大神岬公園
楳葉町大字北田字上ノ山27-19
沿岸住民の避難誘導で警察官2名が殉職。その後パトカーは発見されたが、1名の遺体はまだ見つからない。彼らの遺徳を伝えるため公園内に展示。

⑯富岡町
⑰津波被災パトロールカー(双葉31号車)
富岡町中央2丁目 岡内東児童公園内
沿岸住民の避難誘導で警察官2名が殉職。その後パトカーは発見されたが、1名の遺体はまだ見つからない。彼らの遺徳を伝えるため公園内に展示。

⑱夜ノ森駅と桜並木
富岡町字夜の森北一丁目
町の誇り夜ノ森公園の桜並木と夜ノ森のツツジ。除染が進み桜並木の一部は桜祭り開放された。夜ノ森駅の見事なツツジは除染で全部刈り込まれ、復活を町民は祈っている。

⑳いわき市
⑳いわき市久之浜町東町
明治の大火にも耐えた社は、今回の震災でも周囲が津波と火災で壊滅したが、奇跡に残った。復興のシンボルとなっている。

㉑道山林
いわき市平下高久新舞子
新舞子海岸にある江戸時代に作られた防災緑地。海岸線に10キロにわたって松林が続き、背後は津波の被害が軽減され、浸水程度に終わった。江戸時代の知恵が住民を救った。

㉒稲荷神社
相馬市磯部字大浜
町が壊滅した磯部地区にある。「津波がきたらお明神様に逃げろ!」の言い伝え通り、町を破壊し尽くした津波は参道だけをかすめた。

㉓稲荷神社(奇木神社)
相馬市磯部字大浜
町が壊滅した磯部地区にある。「津波がきたらお明神様に逃げろ!」の言い伝え通り、町を破壊し尽くした津波は参道だけをかすめた。

㉔山田神社
南相馬市鹿島区北海老字磯ノ上
明治から昭和の干拓事業の鎮守として祀られたが、干拓地は水没、氏子47人の命も奪われた。全国からの支援で新社殿が平成28年に完成。

㉕御刀(みと)神社
南相馬市鹿島区北右田字御堂112
延喜式内社を千年にわたって守ってきた北右田集落60戸が津波で壊滅的被害を受け、集落が解散。神社の狛犬は津波に乗って隣の家の座敷に鎮座していた。

㉖北菅浜(きたかひばき)神社
南相馬市原町区北菅浜
北菅浜地区95世帯中65世帯が全壊したが、神社はほぼその形をとどめた。神社を後世につなぎたいと

写真

世は「インスタ」流行りで、スマートフォンで気楽に写真を撮って公にアップする時代。被災地で撮った「普通の顔」を期待し、今回はデータで作品を募集しました。しかし期待は大きく外れ作品数はいつもの半分。それでも写真に添えられたコメントを合わせ読むと、シャッターを切った瞬間の思いがググッと飛込んでくるではありませんか！ むしろこれは東北お遍路写真コンテストが目指す方向か、と感じ入りました。

❖ 青柳 健二（写真家）



今回から応募者にコメントを書いてもらったが、このコメントを含めての審査になった。全体を見た第一印象は、祭りや風景が多く、普通の生活、日常を映した写真が少ないということだった。祭りの写真は絵になるし、高揚感や人々の復興への願いを表すだろう。しかし日常生活の写真は、大きなドラマはなくても、細やかな視線に撮影者の温かみを感じる。それを期待していたところはある。良い方に解釈すれば、「日常」が本当の「日常」に近づいているから写真に撮りたいと思わなくなったということであれば、復興の一過程としてはありなのかなと思う。

❖ 結城 登美雄（民俗研究家／東北お遍路創生委員）



今年の応募作品は、残念ながらこれまでと比べ、訴える力が弱まっているのではないかと感ぜさせられた。東日本大震災から9年の年月が経ち、記憶が薄れ風化しつつあるからだろうか。しかし被災地現場には大切な人を失った悲しみと喪失感を今なお引きずり、ゆるる人々がたくさんおり、様々な思いがその土地に刻まれている。自然災害が多発するこの国に生きる人間として、被災地現場に足を運び、その現実と変化の中から受けとめたものを写真に切りとり、思いのたけのメッセージを加えて、たくさん発信し訴えていただきたい。



優秀賞

小樽山 裕行（宮城県角田市）
『八度目の元日の朝』

8回目の元日の朝を迎えた山元町笠野海岸。この光景に、震災直後に撮られた1枚の報道写真が脳裏をかすめた。それは毛布で体を包んで立ち尽くす被災者の姿だった。あまりにも強烈で忘れない記憶だけだ。

（撮影・宮城県山元町／2019年1月1日）



優秀賞

柏館 健（福島県いわき市）
『大漁旗はためく』

浪江町請戸漁港で開かれる新年の行事、出初め式。漁業そのものの復活はまだまだ途上にあります。町の復興も少しずつ前進しています。はためく大漁旗を見ていると希望を感じることができました。

（撮影・福島県浪江町／2019年1月2日）

優秀賞

村上淳（宮城県気仙沼市）
『八幡様の春』



自分の家も慣れ親しんだ地域の景色もすべて一瞬でなくなるのを目撃した場所、古谷館八幡神社。あの年の春にも咲いていたエドヒガン桜が今年もきれいに咲きました。これからもこの地域を見守ってほしいものです。

〔撮影・宮城県気仙沼市／2019年4月16日〕

佳作

庄司喜一（宮城県名取市）
『大漁旗』



閑上まちびらきでの閑上漁船の大漁旗。昔の姿がよみがえります。

〔撮影・宮城県名取市／2019年5月26日〕

佳作

門林泰志郎（福島県いわき市）
『復興約束の8年目薄磯』



未だに犠牲者が見つからない薄磯海岸での供養祭。復興が進みましたが、あの時の大きな傷は癒せません。それでも豊間人は力強く希望へ進んでいます。

〔撮影・福島県いわき市／2019年3月10日〕

佳作

遠藤清作（福島県いわき市）
『二見ヶ浦のオメガサン』



東日本大震災で夫婦岩の片方が欠け落ちてしまいましたが、地元の人たちは、お坊さんの横顔に似ていることから「坊主岩」と呼んでいます。美しい朝陽は、福島の復興を成し遂げる大きな原動力になっています。

〔撮影・福島県いわき市／2016年1月28日〕

佳作

庄子源六（宮城県仙台市）
『わらし慈願地蔵とこいのぼり』



わらし（こども）を愛しいつくしむ慈愛に満ちたやさしい顔の地蔵さんと風に乗って泳ぐこいのぼりが心に残りましたので、シャッターを押しました。親子連れをあえて入れませんでした。肖像権がありますので。

〔撮影・宮城県東松島市／2018年4月22日〕

佳作

佐々木均（宮城県多賀城市）
『祭りの無事を祈る』



南三陸町入谷まつりの朝、素敵な里山です。

〔撮影・宮城県南三陸町／2019年9月15日〕

佳作

カマタニヒサト（岩手県普代村）
『春の机浜番屋群』



復旧復活した机浜の番屋群。新緑のゴールデンウィークには「こいのぼりやフライキ」も揚げてサッパ船アドベンチャーズなど「番屋まつり」で歓迎。

〔撮影・岩手県田野畑／2019年5月4日〕

佳作



大橋 政博（宮城県仙台市）
『大杉神社の神輿渡御』

海の中に入る珍しい神輿と思いました。多くの漁業者の海上安全と大漁などを祈願して、氏子たちは重い神輿を水中で担ぎ、祭りを盛り上げていました。

〔撮影・岩手県山田町／2019年9月16日〕

佳作



守屋 正安（宮城県仙台市）
『仙台港へ向う』
自動車運搬船

8年前の天津波で広大な松並木の景観が失われた。辛うじて残った松の間を大きな自動車運搬船が通過する。自転車道も整備され、サイクリングを楽しむ人がひと休みしながら、沖ゆく船を眺めていた。

〔撮影・宮城県仙台港／2019年9月24日〕

佳作



庭野 陽子（福島県いわき市）
『マグロ水揚げ』

いわき市の海星高校は毎年ハワイ沖で海洋実習を行いマグロを獲っています。この日は小名浜港でこのマグロの水揚げが行われておりました。

〔撮影・福島県いわき市／2019年6月24日〕

佳作



藤島 純七（宮城県仙台市）
『復興・鎮魂の手筒花火』

2011年より愛知県の職員の方が地元の名物である三河手筒花火を披露しています。毎年炎の「かがり火祭り」の時に同町志津川袖浜で催され、震災で犠牲になった方の鎮魂の風物詩となりました。

〔撮影・宮城県南三陸町／2019年8月24日〕

東北お遍路写真コンテスト・俳句コンテスト当選者発表

【最優秀賞】

被災地うまいもの1万円分

俳句の部

松下 洋介様

写真の部

該当者なし

【優秀賞】

被災地うまいもの5千円分

俳句の部

小久保 顕様／小笠原 聖子様

写真の部

小檜山 裕行様／柏館 健様／村上 淳様

【佳作】

被災地うまいもの2千円分

俳句の部

朗善 千津様／篠木 翔様／吉田 快斗様／菊地 十音様

村田 加寿子様／猪狩 行々子様／及川 貞志様／豊島 喜美子様

佐野 享保様／柴田 かな様

写真の部

庄司 喜一様／門林 泰志郎様／守屋 正安様／庄子 源六様

佐々木 均様／カマタ ニヒサト様／大橋 政博様／遠藤 清作様

庭野 陽子様／藤島 純七様

【入選】

東北お遍路ガイドブック（第1巻）

俳句の部

小松 紀子様／畑 育子様／佐藤 雅子様／鈴木 睦子様

武田 本子様／今野 紀美子様／及川 源作様／佐藤 悦子様

佐藤 妙子様／高橋 さとか様／高橋 幸子様／麻倉 遥様

森高 武様／石井 基予子様／佐藤 やすこ様／さいとうみのる様

平井 改子様／伊藤 弘子様／中田 昇様／鈴木 光子様

西山 逢美様／飯高 きみ様／中村 正弘様／館 柳歩様

関口 芳様／高橋 富久江様／羽矢 真人様／大西 隆栄様

井上 昌子様／松廣 李子様

写真の部

佐藤 裕様／中村 輝一様／渡邊 興次様／藤原 栄一様

川村 裕信様／山本 正彦様／高橋 達也様／横山 光太郎様

佐藤 広和様／市川 清一様／村上 美保子様



がんばろう!あくしま
東北に笑顔を!
smile again hokushima

学ぶのは**技術**と**思いやり**
笑顔あふれる教習所

タイヘイドロンスクール・産業機械講習所・高齢者講習・企業講習・運転適性診断

TAIHEI DRIVER'S SCHOOL

0120-024-623 〒970-8022 いわき市平塩字古川1-1
http://www.taihei-ds.co.jp/

生活に潤いを与え、心にゆとりをもたらす。
緑の環境づくりに貢献します!



有限会社 **新樹園**

いわき市小名浜下神白字館ノ腰5-1
☎0246(54)7116
メールsu-san@chive.ocn.ne.jp



えがお😊はくくむ

「子どもが好き」「子どもたちの先生になりたい」という思いは、保育士・幼稚園教諭の原点です。同じ夢を持った仲間とともに人間力を磨き、保育に必要とされる専門的知識や技能を2年間でしっかりと身につけます。学生一人ひとりに寄り添いながら、子どもたちにたくさんの笑顔をお届けられる保育の専門家を育成します。



いわき短期大学
■幼児教育科

〒970-8023 福島県いわき市平鎌田字寿金沢37
TEL.0246-25-9185 FAX.0246-35-0406
http://www.shk-ac.jp/ijc

緑ある豊かなスペースづくり



三木造園株式会社

代表取締役 木田 浩央

〒970-1152 いわき市好間町中好間字川原子24

TEL0246(36)3525
FAX0246(36)5510

■このイベントは以下の皆様のご協賛をいただき開催しております。

公益信託うつくしま基金

東洋システム(株)、いわき短期大学、(株)タイヘイドライバースクール、(株)加地和組
吉田造園、(有)小名浜造園、(株)マツザキガーデン、常磐開発(株)、(株)山一緑化土木
三木造園(株)、(有)新樹園

会員募集中!

東北お遍路プロジェクトは、会員及び復興者の皆さまとともに東北の被災地で巡礼の道を育んでいくプロジェクトです。この活動の趣旨にご賛同いただき、ともに活動を支えていただける会員、ご寄付を募集しております。

- **一般会員（個人）** 入会金（入会時のみ）：10,000円／年会費：5,000円
- **賛助会員（個人）** 入会金なし 年会費：2,000円
- **法人会員（団体）** 入会金（入会時のみ）：20,000円／年会費：30,000円
- **ご寄付** ご自由に、いくらでも結構です。（随時）

▶ **振込先**：ゆうちょ銀行 02200-3-113028 一般社団法人東北お遍路プロジェクト



夏井いつき句会ライブ in いわき パンフレット／
第3回東北お遍路俳句コンテスト・第4回東北お遍路写真コンテスト作品集

初版発行：2020年3月18日

編集・発行：一般社団法人東北お遍路プロジェクト

仙台市太白区長町三丁目9-10(エフエムたいはく内) ☎022-717-5805

URL <http://tohoku-ohenro.jp> E-mail info@tohoku-ohenro.jp

©Touhoku ohenro contest 2019 無断転載禁止